

今回は、ケガニ密度調査の結果速報と、網走水試の PR も兼ねて参加した夏のイベントについてご紹介します。

《平成 30 年度オホーツク総合振興局管内におけるケガニ密度調査の結果（速報）》

今年のケガニ密度調査は 6 月 11 日～7 月 13 日の期間に行いました。調査は全 68 定点において 1 定点につき調査かご 50 個を 1 日間設置してケガニを採集し、定点毎に漁獲尾数の計数、甲殻硬度の判定と甲長の測定を行いました。オホーツク海域のケガニでは資源量を直接推定できないため、資源量指数^{*1}を用いて資源状況を把握しています。その結果、オホーツク総合振興局管内全体で甲長 7cm 以上の雄（来年度の漁獲対象資源）の資源量指数は昨年の 0.66 倍に減少し、昭和 61 年度（1986 年度）以来最低になりました。海域別では西部海域での減少が顕著でした。一方、甲長 7cm 未満の雄ガニ（再来年以降

に漁獲に加入する資源）については昨年の 1.08 倍の増加に留まったことから、資源の回復にはまだ時間がかかりそうです。海域別資源量指数など詳しい情報はホームページ^{*2}でご覧いただけます。

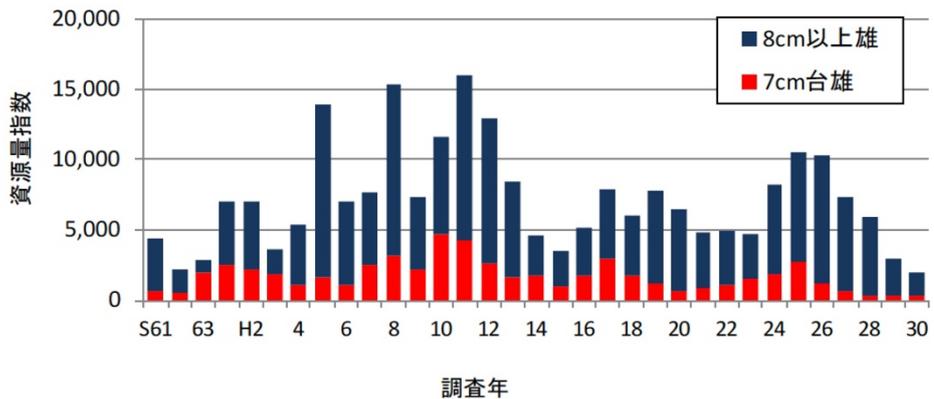


図1 甲長7cm以上の雄ケガニの資源量指数 (オホーツク総合振興局管内)

《第 11 回あばしり水産フェスティバル》7 月 29 日（日）

「あばしり水産フェスティバル」は網走市内の小学生や保護者の方に実際の水産物を「見る」「触れる」「食べる」などの体験型の学習を通じて網走の水産業や水産物に対する理解と、水産生物への親しみを深めてもらおうと網走市水産振興協議会が主催で開催されています。網走水試の他、網走東部水産指導所、東京農大、網走漁協青年部、西網走漁協青年部が共催で参加し、網走市水産科学センター、東農大オホーツク臨海研究センターで開催されました。網走水試では「ホタテ講座」と銘打って子ども達にホタテの解剖を体験しつつ味わってもらいました。今年は小学生及び保護者 291 名が参加し、「先生方の説明など、小さい子どもでもわかりやすく楽しかった」との声もあり好評だったようです。



《北見農業試験場公開デー2018》8 月 9 日（木）

訓子府町にある道総研北見農業試験場では、試験場の仕事や農業について広く知って頂くことを目的に公開デーを開催しており、同じ道総研の網走水試も一昨年から参加しています。網走水試のブースでは「研究成果パネル展示」で研究業務を PR する他、「ホタテの解剖」や「プランクトン観察」を行いました。当日はあいにくの雨となり、オホーツク海産物 PR のため予定していた「活ホタテの浜焼き」は中止にし、活ホタテを抽選で配布することとなりました。降りしきる雨のなか、111 名（小学生以下 20 名を含む）の方がたにご来場いただきました。（網走水試 佐々木）



*1：毎年同じ条件で行った調査データを解析し、経年的に比較することで資源水準や動向を相対的に把握できます。ここでのケガニ資源量指数は、①同時期、同一地点の密度調査から漁獲尾数と重量を把握、②各定点の漁獲尾数と重量を調査面積で引き延ばし、③各定点の値の合計から海域全体の資源量指数が得られます。

*2：http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/att/kegani_sokuhou_180730.pdf